



# JSQC ニュース

No.288

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 「JSQC版品質管理関連用語集」に関して
- 2-私の提言 Qの確保に向けての三つの視点
- 2-ルポルタージュ 第337回中部事業所見学会ルポ
- 3-第336回関西事業所見学会ルポ/コメント募集/9月入会者紹介/デミング賞ほか
- 4-各賞表彰/行事案内/第38年度役員体制役割分担

## 「JSQC版品質管理関連用語集」に関して

第37年度 標準・総合企画担当理事 永原 賢造

### ■品質立国へ向けて

「品質立国日本の再生」をスローガンに、35年度から中期計画立案にもとづく学会運営を「品質の確保」「品質の展開」「品質の創造」及び「共通」の4本柱で、合わせて30余項目の重点施策を展開していることは昨年発行の本欄 (NO.274) で紹介した。

各委員会、研究会、支部、部会等で、中期計画を立案する中で、ミッションの見直しもされて、当学会の一層のパフォーマンス向上につながる動きとなっている。

### ■一層の発信力強化をめざして

標準委員会は、発足後10年を迎え、より一層当学会目的に寄与すべく検討を加えた結果、①品質管理に関する骨格となるアウトプットを出していくことに貢献していくこと、②内外の品質関連標準立案に関与拡大していくこと、及び内外の標準動向をタイムリーに紹介していくこと、とした。

その結果、①項については、まず「新版 品質保証ガイドブック」の編纂の検討・提案を行ない、学会の骨格アウトプット活動として編集特別委員会(委員長:中央大学中條武志教授)が組まれて実施されることになり、2009年11月発刊で準備が進められている。

次に「品質管理関連用語の解説および定義」を作成・提案することにした。

②項については、品質関連のISO、JISの制・改訂に際し、会員各位から積極的にパブリックコメントを提案する環境整備を整えること等とした。

### ■JSQC用語集の発刊にむけて

ご承知の通り、品質管理の領域はQCからTQCへ、そしてTQMに発展してきている。この間に、ISO9000シリーズの1987年版が制定されて以降多くの影響を与えてきた。

このISO9000シリーズがJIS化されるに伴い、JIS Z 8101の統計用語以外の部分の定義が廃止される経過をたどってきている。以来約20年が経過し、マネジメントシステムの整備に効果をもたらしている反面、日本の風土文化に融合しているとは限らずに違和感のある部分も散見される。

例えば、「製品」についての用語定義で、ISO9000シリーズではご承知の通り、プロセスの結果として、ハードウェア、ソフトウェア、素材製品、サービスとして4つで構成されている。また、サービスの中には事前保全や事後保全、およびセールスに関する情報提供や提案が含まれている。

しかしながら、日本人にはこの定義がすんなり受け入れられずに、“製品・サービス”、“もの・サービス”等のように、製品にサービスを入れ込むことに抵抗を感じ、日本人の感性に合った使い方をしている。

用語についての定義や解釈は、そ

の領域の研究、実践、応用の根幹を成すものである。当然ながら世界標準を視野に入れ、かつ日本の文化風土に根ざした日本人の感性に合う定義と解釈の両立を目指していく配慮が欠かせない。

これらの面から、当学会が時代に即した役割を担うべく、「品質管理関連用語の解説および定義」を発信していくことに意義があると考え、準備の途上にある。

歴史をさかのぼれば、QCからTQMにいたる間に多くの著作者により多くの提案がなされてきており、多くの解釈がある。これらの状況をもかんがみて、ISO、JISの標準関係、用語辞典類、そして多くの専門書の中からの主張・要点を横並べしてみることにより、よりわかりやすく、なおかつ時代に即した用語の解説をした上で、当学会としての定義を立案し、発信していくことが重要な役割と認識している。

### ■会員各位の叡智を結集

標準委員会で原案を作成し、検討を重ねてきたが、より充実した内容にするために会員各位からの叡智を結集させていただきたく、ここにパブリックコメントを広く提案いただきたいと考えている(平成20年12月6日まで募集、P3参照)。

については、趣旨をご理解いただき、協力をお願い申し上げる次第である。

## ● 私の提言 ●

## Qの確保に向けての三つの視点

電気通信大学 教授 鈴木 和幸



当学会中期計画の柱をなす“Qの確保”に向けて、トラブルの再発防止と未然防止のための、①発生、②影響評価・緩和、③発見の三つの視点を示す。

トラブルが生じたとき①発生原因に対しPDCAのP（目的+プロセス標準）が確立していたか、またPは遵守されたか否かよりの検討を行う。Pを遵守しうよう教育トレーニングが行われ、P通りの業務を為すことがDoであるが、このPの遵守がどれほど難しいかは誰しもが知るところである。P通りに行う時間がない、このステップは

飛ばしても良いであろう、と自分を納得させ省いてしまう。その結果、市場にて大問題が生じる。このとき、当該ステップを飛ばしたときの②影響度を事前に評価し、その大きさを自覚していればPを遵守するであろう。P通りに行おうとしても、それでも人間はエラーを犯す。このとき、フェイルセーフ設計やエラーブーフを事前に検討しておく。③発見に関しては、設計・生産の段階にて作りこみが正しくなされたかの正常検出を自らが為し得ること。これが無理なときは、異常が作りこまれたとき、異常を発見しうるステップが事前に決まっておき、そこで発見されること。ユーザの使用段階においては、当該システムが正常か否かが判ること。これが無理なら、異常を判

定しうることが重要となる。この為には、状態監視保全がカギを握る。

以上は、トラブルの再発防止の為にPDCAを回す視点であるが、未然防止においても同様である。即ち、①過去のトラブルを開発の仕組み・プロセスにまで反映し、作りこみのPが確立し、Pを遵守しうる教育・動機付け・時間配分が為されているか。そのPを遵守しなかったときの②影響の大きさを本人が知っているか。③正しく業務を為しうるか否かを自らが判定しうるか。これが無理な時、異常が判る仕組みになっているか。即ち、開発・生産ならびにユーザの使用段階において発生・発見・影響評価／緩和の三点を考えることが肝要である。

貴社の重要業務に対し、Pの中身を①発生（作り込み）、②影響評価・緩和、③発見・正常検出の三つの視点より今一度総点検をされることを勧める。

なお、品質・安全性の確保の全体像に対しては、品質誌最新号（Vol. 38, No. 4）を参照されたい。

第337回中部  
事業所見学会  
ルポカゴメ(株)  
富士見工場

去る平成20年8月22日(金)に第337回事業所見学会（中部支部第84回）が、カゴメ(株)富士見工場にて開催され、『カゴメの品質保証（安全・安心）について（原材料の農薬管理、常にお客様に目を向けて）』のテーマの下38名が参加した。

同社は明治32年に創業されトマトソースをはじめトマトケチャップ、ウスターソース、トマトジュース、野菜ジュースなどを製造、販売している。富士見工場は昭和43年に操業開始し、現在、野菜系ジュースの製造を中心に、生野菜の加工、ソースの醸熟液の製造をしており、同社の国内工場2番目の規模である。

見学に先立ち、工場長の坂本様より「よい原料」「よい技術」「地球への優しさ」について、品種改良などのタネづくり、水へのこだわり、世界でもっとも速い充填機など、実例をあげ説明していただいた。

見学では、はじめにトマトの収穫体験をした。契約農家での作業性を考慮し、支柱レス、ジョイントレス（ヘタがない）できるように品種改良したと説明され、その技術力に感銘を受けた。野菜ジュースのペットボトル充填工程では、充填後にペットボトルを転倒させることでキャップ裏側まで殺菌するなど、安心・安全な商品が工程でつくり込まれおり、その工夫に驚いた。

見学後には、品質保証部部長の畠山様より「カゴメの品質保証（安心・安全）」について講演をしていただいた。品質のプロセス管理とその検証、農薬管理について、その考え方や取り組みの実例を詳しく説明され、同社が安心・安全をどのように実現しているかさらに理解が深まった。

開催日は好天に恵まれ、充実した見学内容と丁寧な説明により非常に有意義な見学会となった。また、「参加者意見交換会」において様々な意見が出され、幹事として大変満足の結果となった。収穫体験のトマトが帰宅後の夕食に並んでいるのを見て、食卓の安全・安心は同社の努力によって支えられていると改めて感謝した。

清水 克真（トヨタ紡織(株)）

## 第336回関西 事業所見学会 ルポ

### 関西電力(株) 『南港火力発電所における 環境負荷の低減の取組み』

2008年9月2日(火)、第336回事業所見学会が、大阪港にある関西電力(株)南港火力発電所で行われた。

はじめに、関西電力グループが取り組まれている諸問題に対するこの発電所での取組みについて、詳細な説明を伺った。安全性(防災対策)への配慮、電気需要の増減に柔軟に即応できる高頻度起動・停止を可能とする設備、環境負荷を低減するための特色ある工夫等についての説明があった。

その後、甲子園球場12個半という広大な敷地をバスで周り、発電所の全容の説明を受けた。また、各ポイントで、特徴ある施設・設備を実地に詳細に見学した。蒸気タービンから、取水から放水にいたる水の循環・利用等までの発電所の仕組み全般の中で、もっとも参加者が注目したのは、低炭素社会の実現に向け精力的

に取り組まれている、排煙脱炭技術の研究設備であった。化学吸収法により火力発電所の排ガスから二酸化炭素を分離・回収する技術の研究に着手されたのは今から20年近く前だそうで、関西電力の先見の明が光る。この排煙脱炭パイロットプラントで使われている吸収液は、排ガスの二酸化炭素の90%以上を分離・回収する能力があり、世界最高の二酸化炭素吸収液という評価を得ているそうである。これらの技術、設備について、参加者の興味はやまず、見学を終えた後の質問タイムでも質問が相次ぎ、予定時間をオーバーして主催者側にお答えいただいた次第であった。

この発電所は、緑化にも配慮、スポーツ施設を併設していることから、市民の憩いの場ともなっている。また、電気やエネルギー、環境に関する学びの施設も複数設置され、小中高生の訪問も非常に多いと聞く。関西電力の、環境との関わりが深いエネルギー事業者としてのプライドと底力、社会へ貢献する姿勢を強く印象づけられた事業所見学会であった。

橋本 紀子(関西大学)

「品質管理関連用語の解説・定義(案)」についてパブリックコメントを募集しています。

#### パブリックコメント募集中!

募集期間：平成20年11月7日～12月6日

詳細は次のWeb頁をご覧ください。 <http://www.jsqc.org/ja/oshirase/rijikai.html>

### 2008年9月の 入会者紹介

2008年9月19日の理事会において、下記の通り正会員20名、準会員13名の入会が承認されました。

(正会員20名)(正会員20名) ○大久保一(ジュンテンドー) ○春原 秀基(SHソリューションズ) ○林 克昌(内外施設工業) ○浅野 弘(ホシザキ電機) ○高藤 聡(旭硝子) ○呉 宏堯(IHI) ○前田 朋久(松下電器産業) ○Ozkan Tutuncu(Dokuz Eylul University) ○熊坂 治(パイオニア) ○馬谷原 洋二(島田理化学工業) ○森田 潤一郎(トヨタ車体) ○山口 恒弘(サンクレック) ○小田原 清(泉台経営コンサルタント事務所) ○湯澤 隆一(湯澤ISOコンサルティング事務所) ○若原 敬基・合田 桃子(NTTデータカスタマーサービス) ○新井 慎二(アイシン・エイ・ダブリュ) ○久保田 幸利(セイコーエプソン) ○浅田 潔(新質経営研

デミング賞委員会(委員長 御手洗 富士夫)において、2008年度のデミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月12日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞本賞  
坂根 正弘 氏 株式会社小松製作所 代表取締役会長
2. デミング賞実施賞  
Tata Steel Limited (インド)  
Mr. B Muthuraman, Managing Director
3. 日経品質管理文献賞(文献名五十音順)
  - (1) 「ソフトウェアテストHAYST法 入門-品質と生産性がアップする直交表の使い方-」  
吉澤 正孝、秋山 浩一、仙石 太郎 著
  - (2) 「ソフトウェア品質知識体系ガイド-SQuBOK Guide-」  
SQuBOK策定部会 編
  - (3) 「品質コストの管理会計」  
梶原 武久 著

究所) ○清水 隆之(三栄精機工業)

(準会員13名) ○小暮 遼(東京工業大学)

○高田 康平・加藤 悠(東京理科大学)

○水野 雄一郎・荻原 直矢・三浦 幸

輝・三浦 智(武蔵工業大学) ○安東

孝・中村 眞理・石黒 修平(青山学院大

学) ○丹下 大輔・伊藤 海広・原 崇  
(電気通信大学)

正 会 員 : 2813名

準 会 員 : 100名

賛助会員 : 177社204口

公 共 会 員 : 23口

# 各賞表彰

第38回通常総会において、第37年度最優秀論文賞1件、研究奨励賞2件、品質技術賞2件、ならびに品質管理推進功労賞4氏の授賞および表彰が行われた。

<b>〔最優秀論文賞〕</b>	
黒木 学氏 (大阪大学)	『分散に対する因果効果の定量的評価と工程解析への応用』 「品質」Vol.38, 3, pp. 87-98 (2008)
<b>〔研究奨励賞〕</b>	
加藤 省吾氏 (東京大学)	『ADLに関するケア決定プロセスモデルの設計』 「品質」Vol.38, 1, pp. 119-141 (2008)
川村 大伸氏 (名古屋工業大学)	『半導体ウエーハ処理工程におけるSPCとAPCの融合』 「品質」Vol.38, 3, pp. 99-107 (2008)
<b>〔品質技術賞〕</b>	
笹部 進氏 (元日本電気(株))	『ソフトウェア設計工程における系統の変動の認識と工程能力の革新』 「品質」Vol. 38, 2, pp. 21-27 (2008)
吉野 睦氏 (株)デンソー	
近藤 総氏 (日東電工(株))	
	『シミュレーションモデルの合わせ込みにおける実験計画法の活用』 「品質」Vol.38, 2, pp. 92-98 (2008)
<b>〔2008年度 品質管理推進功労賞〕</b>	
加藤 久佳氏 (愛知製鋼(株))	
北廣 和雄氏 (積水化学工業(株))	
住本 守氏 (株)製品評価技術基盤機構	
光藤 義郎氏 (JUKI(株))	

## 行事案内

### ●第125回シンポジウム (本部)

テーマ：短期開発における品質のつくり込み—FMEAを活用した未然防止活動—

日時：2008年12月9日(火) 9:55~17:30

会場：日本科学技術連盟

千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂

定員：150名

参加費：会員5,000円(締切後5,500円)

非会員8,000円(締切後8,500円)

準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切：12月2日(火)

プログラム：

趣旨説明「JSQC中期計画“Qの確保”の促進活動について」

永原賢造氏 (株)リコー

基調講演「短期開発における未然防止とFMEA」

鈴木和幸氏 (電気通信大学)

事例報告1「日立における未然防止の取組み,および支援システム構築」

津山 努氏、奥名健二氏

(株)日立製作所)

事例報告2「デジタルカメラ開発におけるFMEAを活用した未然防止活動」

北郷 隆氏 (株)リコー

事例報告3「工業ミシンにおけるFMEAを活用した未然防止活動」

玉沢 茂氏 (JUKI(株))

特別講演1「短期開発における品質確立」

清水勝一氏 (キヤノン)

特別講演2「品質の上流形成活動について」

飛田申次郎氏 (オムロン(株))

申込方法：ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

### ●第63回クオリティバブ (本部)

テーマ：経営者視点から見たISOの有効活用方法

ゲスト：丸山律夫氏 (岡谷電機産業(株))

日時：2008年12月12日(金)18:00~20:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定員：30名

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

## 第38年度役員体制決まる

去る11月8日に開催された第38回通常総会において新役員が選出承認され、第38年度の役員体制は以下のとおり決まった。

	◇	◇	◇
会長	大沼 邦彦	株日立製作所 代表執行役 執行役副社長	
副会長	鈴木 和幸	電気通信大学 教授	
	皆川 昭一	クラリオン(株) 常務執行役員	
理事	石井 和克	金沢工業大学 教授	
	岩崎 日出男	近畿大学 教授	
	岩根 茂樹	関西電力(株) 執行役員 企画室長	
	大藤 正	玉川大学 教授	
	釜谷 佳男	富士ゼロックス(株) 品質本部	
	小大塚 一郎	(株)日本科学技術連盟 特任参事	
	兼子 毅	武蔵工業大学 講師	
	鈴木 知道	東京理科大学 准教授	
	鈴木 秀男	慶應義塾大学 准教授	
	瀧沢 幸男	日野自動車(株) TQM推進室 主管	
	中條 武志	中央大学 教授	
	新家 達弥	株日立製作所 品質管理センター長	
	橋本 進	(株)日本規格協会 研修事業部長	
	棟近 雅彦	早稲田大学 教授	
	村川 賢司	前田建設工業(株) 顧問	
	渡邊 浩之	トヨタ自動車(株) 技監	
	渡辺 喜道	山梨大学 准教授	
学理事	瀬崎 操	(株)ブリヂストン 主任部員	
	田中 健次	電気通信大学 教授	
	藤井 暢純	サンデン(株) 技術本部 理事-技監	
監事	大野 正直	NGK人財開発(株) 代表取締役社長	
	尾島 善一	東京理科大学 教授	
顧問	圓川 隆夫	東京工業大学 教授	
	桜井 正光	(株)リコー 代表取締役 会長執行役員	

## 第38年度役員役割分担表

論文誌編集	◎棟近 ○鈴木(知)
学会誌編集	◎瀧沢
広報	◎兼子
事業	◎大藤
研究開発	◎渡辺
規定	◎橋本
会員サービス	◎釜谷
選挙管理	◎鈴木(和)
庶務	◎新家 ○田中
会計	◎小大塚
最優秀論文賞/研究奨励賞	◎鈴木(和) ○棟近
品質技術賞	◎皆川 ○瀧沢
品質管理推進功労賞	◎大沼 ○新家
国際	◎鈴木(知)
標準	◎村川
総合企画	◎大沼 ○鈴木(和) ○皆川
研究助成特別	◎石井
ANQ支援特別	◎鈴木(知) ○安藤 ○飯塚(悦)
QC相談室特別	◎岩崎
JSQC選書特別	○飯塚(悦)
原子力安全特別	◎中條
品質保証ガイドブック特別	◎中條
中部支部	◎木下 渡邊 大野
関西支部	◎岩根 岩崎
ソフトウェア部会	◎兼子 ○笹部 ○保田
QMS有効性および審査研究部会	◎福丸 ○平林
医療の質・安全部会	◎棟近 ○水流 ○永井(庸)

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長、副部会長